

教科目標

社会福祉士養成科

1. 養成目的

社会福祉士有資格者として、その原理・倫理・行動規範に基づく行動・活動をし、専門職として組織・業界・地域に貢献する。

2. 教育目標

入学した全員が社会福祉士国家試験合格を実現し、1年間でソーシャルワークの基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、卒業までに就職や進路を決定する。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	入学前教育		
	導入教育		
	プロ意識教育		
ミッション プログラム	人と家族		
	人と社会		
	個として		
プロフェッショナル プログラム	専門知識・技能	医学概論 心理学と心理的支援 社会学と社会システム 社会福祉の原理と政策 地域福祉と包括的支援体制 社会保障 障害者福祉 貧困に対する支援 保健医療と福祉 権利擁護を支える法制度 社会福祉調査の基礎 ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの基盤と専門職(専門) ソーシャルワークの理論と方法 ソーシャルワークの理論と方法(専門) 児童・家庭福祉 福祉サービスの組織と経営 高齢者福祉 刑事司法と福祉	720 (48)
	現場力教育	ソーシャルワーク演習 ソーシャルワーク演習(専門)	480 (13)
		ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習	
	国試対策		
合計			1200 (61)

4. 学年目標

学年	到達目標
1年	入学した全員が社会福祉士国家試験合格を実現し、1年間でソーシャルワークの基礎的・基本的な知識・技術を身につけ、卒業までに就職や進路を決定する。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
社会福祉士	必	厚生労働省	指定科目を履修、国家試験合格後登録

6. 就職分野

就職分野	職種
障害者施設	生活指導員 生活支援員 就労支援員 相談支援専門員
児童福祉施設	指導員
病院・診療所	医療ソーシャルワーカー
社会福祉協議会	生活自立支援員
生活保護施設	生活指導員
民間福祉サービス業 NPO 法人	生活相談員・指導員
特別養護老人ホームなどの高齢者施設	生活相談員・支援相談員
県庁・市(区)役所・町村役場	社会福祉士専門職 福祉専門職 一般行政職
地域包括支援センター	社会福祉士

2024年度 教科課程

社会福祉士養成科 1年

学年目標

入学した全員が社会福祉士国家試験合格を実現するとともに、1年間でソーシャルワークの基礎的な知識・技術を身につけ、年度内に希望の施設等への就職を決定する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単 位数)	教 科 目 標
プロフェッショナル プログラム	医学概論	Introduction to medicine	専門	必修	講義	30	(2)	以下について理解する。 ・人のライフステージにおける心身の変化と健康課題 ・人の身体構造と心身機能 ・健康・疾病の捉え方 ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程 ・公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策
	心理学と心理的支援	Physiology and Physical support	専門	必修	講義	30	(2)	以下について理解する。 ・人の心の基本的な仕組みと機能 ・環境との相互作用の中で生じる心理的反応 ・人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題 ・日常生活と心の健康との関係 ・心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援
	社会学と 社会システム	Sociology and Social system	基礎	必修	講義	30	(2)	以下について理解する。 ・現代社会の特性 ・生活の多様性 ・人と社会の関係 ・社会問題とその背景
	社会福祉の原理と政策	Principles and policies of social welfare	専基	必修	講義	60	(4)	以下について理解する。 ・社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論 ・社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論 ・欧米との比較による日本の社会福祉の特性 ・社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について ・福祉政策を捉える基本的な視点としての概念や理念 ・人々の生活上のニーズと福祉政策の過程 ・福祉政策の動向と課題を踏まえた上での関連施策や包括的支援 ・福祉サービスの供給と利用の過程 ・福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性

プロフェッショナル プログラム	社会福祉調査の基礎	Basic for social welfare research	専基	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・社会福祉調査の意義と目的 ・社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係 ・社会福祉調査における倫理や個人情報保護 ・量的調査の方法及び調査の結果 ・質的調査の方法及び調査の結果 ・ソーシャルワークにおける評価の意義と方法
	ソーシャルワークの基盤と専門職	Foundations for social work	専基	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ ・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理
	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	Foundations for social work	専基	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・社会福祉士の職域と求められる役割 ・ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性 ・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
	ソーシャルワークの理論と方法	Theory & method for social work	専門	必修	講義	60 (4)	以下について理解する。 ・人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ・ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ ・ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術 ・コミュニティワークの概念とその展開 ・ソーシャルワークにおけるスーパービジョン
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	Theory & method for social work	専門	必修	講義	60 (4)	以下について理解する。 ・社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法 ・支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術 ・社会資源の活用意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクション ・個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法
	地域福祉と包括的支援体制	Community welfare and Comprehensive Support system	専門	必修	講義	60 (4)	以下について理解する。 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向 ・地域福祉における主体と対象 ・住民の主体形成の概念 ・地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割 ・地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開 ・包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際 ・地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士
	福祉サービスの組織と経営	Organization and management for social service	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ソーシャルワークにおいて必要となる、福祉サービスを提供する組織や団体の概要 ・社会福祉士に求められる福祉サービスの組織と沿革、経営の視点と方法 ・福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論、労働者の権利等 ・福祉サービスに求められる福祉人材マネジメント

	社会保障	Social guarantee	専門	必修	講義	60 (4)	以下について理解する。 社会保障の概念や対象及びその理念 ・社会保障制度の展開過程 ・現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題 ・社会保障制度の財政 ・公的保険制度と民間保険制度の関係 ・社会保障制度の体系と概要 ・諸外国における社会保障制度の概要
	高齢者福祉	Geriatrics welfare	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境 ・高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程 ・高齢者に対する法制度と支援の仕組み ・高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方
プロフェッショナルプログラム	障害者福祉	Handicapped welfare	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境 ・障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程 ・障害者に対する法制度と支援の仕組み 障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方
	児童・家庭福祉	Child welfare and Family welfare	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・児童が権利の主体であることを踏まえ、児童・家庭及び妊産婦の生活とこれを取り巻く社会環境 ・児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程 ・児童や家庭福祉に係る法制度 ・児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法、社会福祉士の役割 ・児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援のあり方
	貧困に対する支援	Aid against poverty	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境 ・貧困の歴史と貧困観の変遷 ・貧困に係る法制度と支援の仕組み ・貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方
	保健医療と福祉	Health care and Welfare	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向 ・保健医療に係る政策、制度、サービス ・保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働 ・保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方
	権利擁護を支える法制度	Legal system that supports rights protection	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎 ・権利擁護の意義と支える仕組み ・権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際 ・権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ・ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度
	刑事司法と福祉	Criminal justice and Welfare	専門	必修	講義	30 (2)	以下について理解する。 ・刑事司法の近年の動向と制度の仕組み ・刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割 ・刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割

プロフェSSIONナル プログラム	ソーシャルワーク演習	Practice for socialwork	専門	必修	演習	30 (1)	・ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ・ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。 ・ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 ・ソーシャルワークの展開過程において用いられる、知識と技術を実践的に理解する。
	ソーシャルワーク演習 (専門)	Practice for socialwork	専門	必修	演習	120 (4)	・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。 ・社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。 ・支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。 ・地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。 ・ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。 ・実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する。 ・実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する。
	ソーシャルワーク 実習指導	Specialwork practice for fieldwork	専門	必修	演習	90 (3)	・ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 ・社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ・ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。 ・実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。
	ソーシャルワーク実習	Social work training	専門	必修	実習	240 (5)	・ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。 ・生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 ・施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 ・総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。
	総時間数 1200	総単位数 61					